

北方学園構想に関するQ&A(R3.3月現在)

Q 令和5年4月の開校は決まっているのか(学園構想に取り組む経緯は)

A 各教育施設の老朽化が進んでおり、大規模改修など早急な対応が必要な状況です。しかし、大規模改修を行う際は、今後20年～30年の施設利用計画・方針を決めなくてはなりません。また、全国的に少子化が進む中、これからの北方町の将来を担う子どもたちの適切な教育環境を整備・維持していくためには、財政的にも効率的かつ合理的な施設運営を行わなくてはなりません。このような状況の中、「北方学園構想」は、①教育力の向上②学校運営の効率化の2つの課題を同時に解決するため、H29年度に町長が施策決定したものです。

H30年度には学校構想検討委員会にて「義務教育学校2校体制への再編により、9年間を通して子どもたちへの理解を深め、長期的な視野で能力を伸ばしていくことができ、学力向上や生徒指導体制の強化の観点からも成果が期待できる」との協議がなされています。

今後とも、皆様のご意見などに十分な配慮をすることが大前提ですが、2023年4月の開校は決定事項として各種施設の再編を含めた「北方学園構想」に取り組んで参ります。

Q 学校区や義務教育学校の位置はどこになるのか

A 既存の小中学校4校を2校に再編するため、施設の効率的な配置が必要です。既存の施設を最大限有効活用できるように勘案し、北学園を今の北小・北中の場所に設置し、南学園を南小学校に設置します。

学校区については、北学園と南学園の児童生徒数が同数程度になるとよいですが、機械的に人数を揃えるよりも、地域との関わりやこれまでの学校の伝統を引き継いで学校区を考えていくことが大切です。特に、義務教育学校となることで学校運営協議会やPTAなどを9年間一貫した組織とすることができ、より地域との連携を深められます。そのため、現在の北方小学校区と北方西小学校区が一緒になって北学園校区、北方南小学校区を南学園校区とし、選択制や自由区は設けません。ただし、「いじめに関わる友だち関係」や「家庭の事情」など個別の事情に対しては、規則に基づき、もう一方の学園に転校・入学ができるようにします。

Q 南小学校が南学園となる際に問題はないのか(敷地、施設、設備)

A 南小学校の普通教室に関しては余裕があるため、それを有効活用します。また、中学校として足りない施設・設備は増築などして整えるほか、学校

敷地の拡充も検討しています。なお、北学園と比べて生徒数が少なくなることが予想されますが、通学距離が短くなることや教員数の確保など義務教育学校としてのメリットを十分に生かしたいと考えます。

Q 小学6年生が最高学年としての活躍ができなくなるのでは

A どの学年の子どもたちにも、その学年の区分を生かした行事や取り組みを考えていきます。それぞれの発達段階に合わせて、リーダーシップを発揮できる場を作るなど、適切な体験を積み重ねていけるように工夫します。

Q 部活動はどうなるのか

A 北と南に生徒が別れることにより、部活の人数が確保できない恐れがあります。今後の検討課題ですが、北方学園全体で1つの部活を組織するなどの対応策が考えられます。(たとえば通常の基礎練習は北・南それぞれで行うが、週何日かは全体練習でチームプレーを鍛えるなど)

なお、北方学園開校時の部活動については、令和4年度末の北方中学校と同じ部活動を両校に組織します。また、将来的には「スポーツ少年団」、「部活動」、「ジュニアクラブ」を一体化して「北方学園スポーツクラブ」とし、効果的に子どもの指導が行える組織への統合を目指します。

Q 制服やランドセルなど保護者の費用負担について配慮してほしい

A 制服や学用品などの取り扱いについては、今後の協議の中で保護者の意向を踏まえて決定していく事項ですが、過重な負担とならないように配慮していきます。

なお、制服に関しては「ブレザー型」を採用し、男女ともスカート、スラックス、リボン、ネクタイのどの組み合わせも可とします。



制服のイメージ

基本的にブレザー及びスカート、スラックスは男女同じ色・柄です

Q 北学園と南学園に格差が生じないか

A 南学園には中学校に必要な設備（特別教室等）を増築するなどして対応し、北と南での格差はなるべく無いようにします。また、北学園と南学園の間の交流活動を活発に行ったり、良い意味でのライバル関係を構築したりすることにより、互いに切磋琢磨できるような体制を整えていきます。

Q 義務教育学校にするメリットは

A 長期的な視野で、ゆとりを持って教育に取り組むことができます。

○安心して中1に進級

中学校進学時に不登校などの問題行動が増えたり、学習意欲が低下したりする傾向にあることへの有効な対応策となります。例えば、中1に進級するときに、同じ学校に自分のことを分かっている先生が何人もいるため、中1で途切れることなく連続してよさを発揮できます。

○小学校からの専門的な授業

小学校の高学年から徐々に教科担任制を行うことが可能となります。特に音楽や図工は歌声や作品にその成果が如実に表れます。また、学習計画も9年間で立てるため、連続したスムーズな学習が期待できます。

○落ち着いた学校生活

小中一貫した生活ルール、異年齢活動の充実、小中の生徒指導連携の強化、9年間を通した子ども理解などにより、より落ち着いた学校生活が期待できます。

○特色ある教育の実施

9年間の一貫した教育の中で、平和学習や英語教育など、特色ある教育を実施することができます。町としての魅力の高まりが期待できます。

○豊かな関わり

子どもたちは、これまでよりも幅広い学年とふれあい、さまざまな教員と関わるすることができます。

○教員の指導力向上

教員にとっては、幅広い年齢の子どもとの関わりを通じて、指導方法や子ども理解に新たな気付きが生まれることが期待できます。

Q 住民の意見などへの対応は

A H30.5月に保護者、教職員向け、6月に一般住民向けにアンケート調査を行い、様々な立場の方々から意見聴取し、検討委員会での参考資料としています。また、その後も住民対話集会やPTA 連合会、コミュニティ学園、自治会連絡協議会など、様々な場で学園構想に関する説明やご意見を頂く場を設けており、延べ参加人数は令和元年6月末現在で3,000人を越

えています。その他にも庁舎ロビーに学園構想コーナーを常設展示しているほか、町ホームページで随時情報公開しており、広報きたがたでは毎月「学園構想コーナー」にて検討内容などをお知らせしています。

コロナ問題のため、令和2年以降は直接お話ができる機会が限られておりますが、令和5年4月の開校に向けて、なるべく多くの皆さんに関心を持っていただき、ご理解・ご協力をいただきながら、よりよい学校とできるよう着実に進めていきます。

Q 北方学園が開校する前に、試験的に小中学校間の教師の交流を図っては

A 今の小中学校の仕組みでは、授業時間の調整や先生方の日程調整などが大変難しいです。同じ義務教育学校の中だからこそ、前期課程（小学生）と後期課程（中学生）の先生との調整がしやすくなるのであって、現状のままでの実施は困難と考えます。

なお、令和3年度より北方小学校と北方中学校は小中一貫校として連携を深める取り組みを始めます。中学校の先生が計画的に小学校の授業を受け持つことができるように工夫していきます。

Q 現状の体制でも教科担任制はできるのではないか

A 現状では、例えば音楽や図工を専門とする先生の予定が合えば、授業を代わって担当してもらうようなことはできますが、その年の状況により実施できたりできなかったりする不安定な状況です。北方学園構想では、どの教科を教科担任制にするかを検討して安定的に授業を行っていく予定です。

Q 北方学園が開校する前に、小中学校間の児童・生徒の交流を図っては

A 北方学園が開校する前に、環境の変化による子どもたちへの影響を緩和するためにも、様々な交流事業（遠足、サミットなど）を計画したいと思えます。

Q 他市町村での事例などの情報を集めて研究してほしい

A それぞれの学校には様々な個別事情がありますが、北方学園の開校に際して参考となる情報収集に努め、必要に応じて直接訪問するなどします。また、収集した情報は検討委員会でも提供し、今後の参考資料とします。

なお、令和2年4月現在、全国では120校ほどの義務教育学校が開校しています。また、開校にむけて協議・調整中の事例も多数存在しています。参考までに町が調査した先行事例として、すでに開校しているいくつかの学校の特徴的な事例を紹介します。

○羽島市 桑原学園

(平成29年4月開校 児童・生徒数171人)

白川郷学園と並び、岐阜県初の義務教育学校として開校。低学年から段階的に教科担任制を導入しています。中学校2年生の技術と小学校2年生の生活科の授業をコラボするなど、授業における異学年交流をしています。校章は開校後に選定しています。

○白川村 白川郷学園

(平成29年4月開校 児童・生徒数116人)

5年生から教科担任制を導入。小中同一日課を実施しています。ふるさと学習や小学校6年生の3学期から中学校の英語の教科書を使った英語教育など、特色ある教育を進めています。

○品川区 豊葉の杜学園

(平成28年4月開校 児童・生徒数920人)

隣接する幼稚園・保育園と連携して学校を運営しています。5年生から部活動に参加して上級生の姿を目標にしており、生徒指導上の問題が激減しています。教科担任制は5年生からの段階的な実施としています。4年かけて工事を少しずつ順に進めることにより、子ども達への影響を減らす配慮をしました。

○成田市 下総みどり学園

(平成29年4月開校 児童・生徒数440人)

5年生から段階的に教科担任制を実施。1～9年生までの縦割り班や全校遠足など、異学年交流を活発に行っています。広い学校区のため、6台のスクールバスを運行しています。

○福井市 福井大学教育学部附属義務教育学校

(平成29年4月開校 児童・生徒数740人)

5年生から教科担任制を導入。特に英語、音楽、造形・美術、家庭科は後期課程の教員が縦持ちしています。児童会・生徒会には自主的に企画・運営させるなど、子どもたちの主体性を重んじています。一貫した学び方の指導により、極めて高い表現力が育っています。

○京都市 京都教育大学附属京都小中学校

(平成29年4月開校 児童・生徒数862人)

平成15年度から小中一貫教育に取り組んでおり、全国的に先進校として有名です。特に「小中システムを融合した中等部の運営」に力を注いでおり、5年生から7年生までの3年間を「緩やかな移行期間」として教科担任制の段階的導入、部活動への一部参加、生徒会活動への参画などを行っています。特に目立った成果として、中学生の生活態度がとても落ち着いてきています。

○横浜市 霧が丘学園

(平成 28 年 4 月開校 児童・生徒数 836 人)

もともと市道を隔てて隣同士だった小学校と中学校を統合した「施設併設型」の義務教育学校です。市道廃止後に屋根付き渡り廊下を設置してつながりを強化しています。地元の自治会との結びつきが強いことが特徴で、自治会主催の美化運動への参加や自治会補助金による生徒の海外派遣事業などがあります。

○京都市 凌風学園

(平成 30 年 4 月開校 児童・生徒数 694 人)

5 階建ての校舎に 1 年生から 9 年生が入る「施設一体型」の義務教育学校です。すべての小中の教員及び事務職員が 1 ヶ所の職員室に入っているのが特徴です。校区内にコリアンタウンがあるなど外国籍児童生徒が多く、以前はむしろ「荒れた中学校」であったが、義務教育学校となった結果、非常に落ち着いた学校に変わっています。

Q 給食調理場はどうなるのか

A 現在の給食調理場は、施設・設備の老朽化やそれに伴う衛生面での心配も出てきているため、施設の建て替えを行います。なお、現在の位置では手狭なことや建て替え中の給食の提供の問題もあることから、北方小学校グラウンドの南の位置に移設します。新給食調理場は令和 3 年 4 月より稼働開始します。

Q 町立幼稚園・保育園はどうなるのか

A 北学園の敷地内に子ども園を新設することに伴い、町立幼稚園は子ども園に統合します。保育園に関しては民営化及び整理統合を合わせて今後検討していく予定です。

Q 財政的な負担が大きいのではないか

A 学園構想全体にかかる経費は、施設の詳細設計が決定するまで正確な金額は算出できませんが、町の健全な財政運営上、総額 26.5 億円程度を想定しています。必要以上に華美な施設を建設することはありませんが、子どもたちの安全面には十分配慮した施設を建設します。なお、学園構想は既存の 4 小中学校を 2 校に再編する構想ですので、施設維持経費やランニングコストについて今後 30 年間で約 32 億円程度の削減効果が見込まれます。

Q 教員の事務負担が増えるのではないか

A 学園の開校に伴う小中一貫のカリキュラムの作成など、特に開校前後には教員の事務負担が増えることは否めません。教育委員会事務局との協力体制を築き、一部の教員に負担が集中しないように配慮するなどして対応したいと思います。しかし、開校後に義務教育学校としての運営体制が固まれば、以前よりも事務の合理化による負担減が見込まれます。

Q 北学園はマンモス校となるので問題はないか

A 北学園の児童生徒数は1,000人程度の予定です。各学年とも3クラスとなる見込みで、標準的な学級編成と言えます。一般に小学校・中学校単独で全校生徒が1,000人を超えたり、1学年で300人・10クラスを超えたりすると大規模校と言われますが、義務教育学校としては適正な規模であり問題ありません。

Q 北方小学校と北方中学校の間の町道は廃止するのか

A 北学園が小中一貫の義務教育学校として、そのよさを発揮するためには学校を分断する道路があっては十分な効果が見込めません。なにより、子どもの安全面（交通安全、不審者対策）を考えれば、道路を廃止して一体型の学校敷地となることが望ましいです。

令和元年6月議会にて、町道廃道の議案が可決がされましたので、今後、近隣の住民の方をはじめ、保護者や学校関係者の皆さんの理解をいただきながら、実際の施設整備を進めていきます。

Q 義務教育学校制度のデメリットはないのか

A 例えば、学校開校の前後は何かと教員の事務負担が増えることはデメリットですが、開校後には以前よりも事務負担が減ることが見込まれることはメリットです。このように一つの問題にはメリット・デメリットの両面が考えられる場合が多く、特にデメリットのみが心配される問題は今のところありません。今後、協議が進んでいく中で、デメリットと思われる問題が明らかになってくる可能性はありますが、その際には適切な対策を検討したいと思います。

Q 北方学園構想の施設において、通常の入出り口その他、参観日や緊急時の保護者出入り口や避難路など、人や車の導線を検討しているか

A 非常時の導線など具体的な運用方法等は今後の課題ですが、例えば参観日など、運動場を駐車場として利用する際には車輛の入口と出口を別に設けて一方通行とするなどスムーズな導線となるよう工夫しています。

Q 中学校が2つに分かれることが不安

A 北方学園構想では義務教育学校2校体制となりますが、2校がよきライバル関係を築くことにより互いに高まり合うことができたり、生徒一人ひとりの活躍の場が増えたりすることになります。また、2校体制になることで教職員数の増加が見込まれるというメリットもあります。

なお、開校時に中2、中3が仲間と別れることによる子どもたちへの心理面や学習面における不安に対応するため、「町立進学塾」を設立する予定です。開校直後の令和5～6年度の2年間（令和5年度は8、9年生、令和6年度は9年生が対象）毎週土曜日、1回2時間程度の教室を設けます。受講料は無料で、5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の試験対策講座や進路・生活相談に応じる予定です。

Q 2校の学校名はどうなるのか

A 公募により集まった校名案をもとに、児童・生徒、一般向けアンケートを実施して協議した結果、2校の校名は「北方町立北学園」、「北方町立南学園」とすることになりました。

Q 2校の校章はどうなるのか

A 公募により集まった校章案をもとに、児童・生徒向けアンケートを実施して協議した結果、2校の校章を以下のとおり決定しました。



Q 「北方科」とはどのような教科なのか

A 北方への郷土愛と教科の学びを深める小中一貫の特設教科です。各教科の学習や総合的な学習の時間との関連を図りながら、各年間15時間を設定します。1～2年生は「町の人や自然と遊ぶ」、3～4年生は「町のよさを

学ぶ」、5～7年生は「町の歴史や現状を理解する」、8～9年生は「町の将来を考える」をテーマとします。今後、教員を中心とした作業部会でカリキュラム案を作成し、各種団体の代表を中心とした審議委員会で内容を審議していきます。

Q 2校の校歌はどうなるのか

A 北小と西小の校歌は校名の部分が違うだけなので、当面の間は北学園は北小・西小と北中の校歌を使い、南学園は南小と北中の校歌を使います。また、学園全体の歌として「北方のかほり」を活用する予定です。将来的には、それぞれの学校の児童・生徒から校風にあわせた新しい校歌を作ろうという機運が高まった時に改めて検討します。